

学校番号	学校名	校長名
48	川崎市立 麻生中学校	金子 三弘

学校教育目標	今年度の重点目標
自主自律 (1)健康で明るい人 (2)思いやりのある人 (3)創造性豊かな人 (4)国際性に富む人	1. 豊かな心の育成 2. 確かな学力の育成 3. 健康・安全教育の推進 4. 開かれた学校づくりの推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 「共に生き、共に育つ」心の教育の充実 2 自己肯定感の育成 3 いじめ根絶、不登校対応の充実	○学校目標「自主自律」の精神で、生徒自ら考えて行動できるように支援する。 ○ひとりの大人として、教師の言動や態度、温かみのある丁寧な言葉づかい、態度で指導や支援を行う。 ○学校・学年行事には目的をもって取り組み、達成感や自己肯定感を感じられる指導・支援を行う。 ○教職員がチームを組み、生徒に対するアンテナからソナーに換え、教職員から意識的に声かけや見守りをして教職員と生徒が触れ合う機会を持つ。 ○いじめや不登校、問題行動等の未然防止に努め早期発見・早期解決できるように教職員の連携や体制を図り、生徒会本部を中心に各専門委員会で取組や活動を工夫する。	・常日頃から教職員がチームを組み、教員から生徒に声かけや見守りを行い、教職員と生徒が触れ合う機会を意図するように努めた。 ・道徳の教科化に伴い、年間計画、授業スタイル等の研修を行い職員間で共有した。引き続きかわさき共生＊共有プログラムや人権教育を通して生徒同士の良好な関係作りや道徳性、人間性、思いやりの心の育成に努めた。 ・いじめや不登校、問題行動等の未然防止に努め、早期発見・早期解決できるように教職員の連携や体制づくりに努めた。 ・教師と生徒の強い信頼関係の構築に努め、年3回の教育相談を有効に活用し、教職員間で組織的に生徒の情報を共有し指導・支援を行った。	・学校目標である「自主自律」の精神で、TeachingからCoachingへ、生徒自ら考えて行動できるように支援する。 ・一人の大人として生徒と接するように、教師の言動や態度には温かみのある丁寧な言葉づかい、態度で指導や支援を行う。 ・学校・学年行事では、目的をもって取り組み、達成感や自己肯定感を感じられるように指導支援に努める。 ・引き続き教職員がチームを組み、生徒の観察、声かけ、見守り等教職員と生徒が触れ合う機会を意図する。 ・いじめや不登校、問題行動等の未然防止に努め、早期発見・早期解決できるように教職員の連携や体制を図り、生徒会本部を中心に各専門委員会で取組や活動を工夫する。
1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得 2 主体的な学び、思考力・判断力・表現力の育成 3 UDLの視点から支援教育の充実	○これからの社会の変化の中で、どのような能力が生徒に必要なか、教職員で研修を行い共有し実践する。 ○UDL(ユニバーサルデザイン・ラーニング)の視点を授業に取り入れ、教師の授業力向上と生徒にとってわかりやすい授業の工夫に取り組む。 ○支援コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりに対応した学習体制づくり、取り出しや入り込み、個別指導の充実を図り、個に応じたきめ細やかな指導を行う。また、CDR教室での別室登校の対応の計画や準備を行う。 ○キャリア在り方生き方教育を探究的な学習とし、職業インタビュー、職場訪問を通して働くことについて考える機会を設ける。	・「わかる授業」への実践に向けて、ユニバーサルデザインの視点で授業改善、校内授業研究会や学習評価の研修を行った。 ・各観点における、効果的な学習評価を実現するためのフィードバック方法の確立の研修を行い、生徒の主体的な学習態度の育成につなげるよう努めた。 ・支援コーディネーターを中心に取り出しや入り込み、個別指導の体制づくりや実際の取組の充実を図っている。また、テスト前や月1回の学習会の実施により、個に応じたきめ細やかな指導をより一層実践に努めた。 ・GIGA端末を使った授業に取り組んでいるが、今後、GIGA端末を使った授業展開や内容の工夫についての研修を計画し主体的対話的な深い学びについて研究していく。 ・総合的な学習の時間を使い、キャリア在り方生き方教育を探究的な学習として、職業インタビューを通して今できることやすべきこと、将来の夢を生徒に考えさせることを行った。	・これからの時代の変化の中で、将来生徒たちが社会の中でどのような能力が必要か等を考え、主体的に学習に取り組む生徒の育成のための研修を行い共有し、実践していく。 ・支援コーディネーターを中心に、生徒一人一人に見合った学習体制を整え、また、CDR教室での別室登校の対応の充実を図る。 ・ユニバーサルデザイン・ラーニングの研究と授業の中に取り入れることによって、教師個人の授業力向上を目指すと同時に生徒にとってわかりやすい授業の工夫に取り組む。 ・一人一台のGIGA端末が配付され、一斉授業から、対話的で主体的、深い学び、個別化が授業の中で展開しやすくなる反面、教員のGIGAに対する知識・技能の研修や、生徒の情報モラル教育の充実を図る。
1 健康教育の充実 2 防災安全教育の推進 3 危機管理意識の向上 4 働き方改革に対して教職員の意識向上	○生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 ○学校内外での怪我・事故対応は、迅速で適切な対応に心掛け、生徒・保護者に対して丁寧に対応する。 ○「学校は安心安全な場所でないといけない」を共通理解として、教室・校舎等の安全点検と環境整備に努める。 ○生徒一人一人の防災意識を高めるため、防災教育を通して、防災に関する知識を身につけ、地域コミュニティとの結びつきに取り組む。 ○会議の持ち方の改善、計画年体の推進、学校行事の企画・運営の仕方の工夫を検討する。	・生徒や保護者に対してきめ細やかな対応で医療関係機関等との連携を図り、迅速かつ適切な対応に心掛けた。 ・ユニバーサルデザインを意識した学習環境整備を教職員全体での取組を行っている。 ・年2回の避難訓練や1年生での防災イベント(地域教育会議主催)を実施することができた。 ・日常的な生徒への観察や会話を通して生徒に対する意識向上に努めた。 ・学校・学年行事は概ね、コロナ前のように実施することができ、生徒の達成感が感じられた。	・引き続き感染予防対策を意識して、授業、委員会部活動、学校行事に教職員は務め、生徒にもその実践を図る。 ・校内校外での怪我・事故対応は、迅速かつ適切な対応に心掛け、生徒・保護者には丁寧に対応する。 ・「学校は安心安全な場所でないといけない」を共通理解として、教室・校舎等の安全点検と環境整備に努める。 ・職員の情報モラル意識を高め、防災意識の知識を高める。 ・学校における働き方改革を進めるにあたり、学校の組織体制を見直し長時間勤務を是正していくことに努める。 ・会議等の始まりと終わりを明確にする。また、学年の中で計画年体取得の推進を図る。
1 PTA活動の充実と連携 2 コミュニティスクール(学校運営協議会)の推進 4 麻生中学校校区地域教育会議との連携	○学校に関する生徒・保護者のアンケート結果や学校行事後の感想を分析し、次年度の取組や課題を具現化し、教職員全体で共通理解すると共に改善する。 ○学校・学年・学級通信等の継続的な情報発信を推進する。 ○保護者・地域住民が教職員と一体になって学校運営に取り組むコミュニティスクールの組織作りと運営に取り組む。保護者・地域・小学校との連携の強化に取り組む。 ○本校に入学してくる近隣の5つの小学校との学校行事の把握や調整を行い、より一層、連携や情報交換を深めるように努める。	・コミュニティスクールを立ち上げ、年2回総会を実施した。次年度は学校行事と関連した事業を実施したい。 ・学校便りや学級・学年通信等の継続的な情報発信を推進に努めた。 ・本校に入学する5つの小学校との連携をより一層強くすることを意識した。 ・PTA活動はコロナ禍の経験で活動を見直し、PTA役員・会員の負担を軽減することができた。	・PTA活動は会議の回数や活動のスリム化を、実施することができた。この経験を次年度につなげていきたい。 ・コミュニティスクール学校運営協議会は2回行うことができた。来年度はより充実した活動を行ってきたい。 ・学校に関する生徒・保護者のアンケート結果や学校行事後のアンケート結果を分析し、来年度の取組や課題を具体化して、教職員全体で共通理解をするとともに今後の学校経営に生かす本校に入学してくる近隣の5つの小学校との学校行事の把握や調整を行い、より一層連携を深めるように努める。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
令和2年度、学校教育推進会議を学校運営協議会(コミュニティスクール)として立ち上げました。しかし、コロナ禍で、学校行事や地域行事に学校運営協議会のメンバーの参加ができなかったが、今年度、生徒が地域の行事に参加する機会が持てた。 今年度は第1回の総会を6月に実施し、2月の第2回総会も実施することができた。 【生徒】 ・学校は安心の場所が88%、先生や友達と話す機会が十分あり相談できるという項目が89.2%で、約9割の生徒が肯定的な回答をしている。 ・授業の工夫が90%、グループ活動や話し合いができるが97%、適切な評価が90%という高い回答を得ている。 ・学校は、個性を尊重し、丁寧な対応をしているが88%、病气事故対応を適切に行っているが93%、保護者への情報発信が95%で、高い回答を得ている。 【保護者】 ・教育課程説明会や学校通信で教育方針や学校の出来事をわかりやすく伝えていてと感じているが93%である。 ・「学校からの配付物が保護者に渡されていない」と項目に49%の保護者が答えている。 ・ラインやインターネットの使用に関して、生徒は「正しく利用している」が94%占めているが、保護者は77%で、約20%のギャップがある。 【地域の方】 ・学校と地域が行う行事が復活し、生徒が参加する機会があった。次年度も継続したい。 ・学校教育推進会議では、児童生徒と話す機会、声が聞ける場であったが、学校運営協議会ではメンバーに児童生徒がないので是非、話せる機会を設けてもらいたい。	生徒は、学校目標の「自主自律」のもと、学習面・生活面ともに通常の学校生活に戻り、落ち着いた雰囲気の中で教育活動に取り組むことができた。今年度はコロナ禍の経験を踏まえて多くの学校・学年行事を実施方法を工夫して行うことができた。この2年間で改めて学校行事の意義や見直しができ、行事をこなすのではなく、行事を通して生徒をどのように伸ばしたいかという観点で計画立案しなければならぬと実感した。次年度は本校の特色や良さをさらに生かし、地域や保護者との更なる連携を図るとともに、次のような重点目標を設定し引き続き、感染予防に注意しながら教育活動を推進し取り組んでいきたい。 (1) 授業での有効なGIGA端末使用やUDLの視点を取り入れた個に応じたわかる授業の工夫 生徒の理解度は高く、また学習に対する意欲も高い。しかし、理解が不十分な生徒もおり、個に応じたきめ細やかな指導を工夫していく必要がある。主体的対話的で深い学びの実践や支援協力、支援体制を確立し今後も教員の授業力の向上を図るとともに、ユニバーサルデザインの視点で、わかる授業、学習環境そして信頼性の高い評価に努めるため、さらに研鑽を積んでいきたい。 (2) 人権尊重教育の充実といじめのない学校づくり 教師と生徒、生徒相互の望ましい人間関係の構築を図り、自尊感情や思いやりの心を育成する。また、生徒一人一人の個性を尊重し、生徒理解に基づく適切な指導・支援を行う。 (3) 地域に根ざした学校づくり 保護者や地域住民が教職員と一体になって学校運営に取り組むコミュニティスクールの運営に取り組む。保護者・地域・小学校との連携をさらに強めて運営に取り組んでいきたい。 (4) 教職員の姿勢 教職員自身が、授業や委員会・部活動、学校行事に、やりがいを持って、生き生きと前向きに取り組む姿を見せ、生徒と一緒に学校を築いていくことを目標に掲げ、次年度も実践していきたい。